

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100153		
法人名	ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター蘇我		
所在地	千葉県千葉市中央区鶯の森12-12		
自己評価作成日	平成25年3月4日	評価結果市町村受理日	平成25年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成25年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居のお客様一人ひとりの身体状況を全スタッフが把握・共有し残存能力の維持をはかり、自立支援のための介護計画を作成しています。また、ご入居者の心・想いを受け止め介護計画に取り入れています。
 ご入居者・ご家族に納得いただいた介護計画に基づいて、ご入居者が日々安全に、楽しくお過ごしいただけるよう《おもてなし》の心をもってスタッフ一同支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは「おもてなしの心」に、大きなウエートを置いて理念の実践に取り組んでいる。ホーム長は、サービスとは要求された事を行うに過ぎず、「おもてなし」とはサービスの奥にある心を探って行うことと実践面で指導している。ホーム長自らが穏やかな語りかけを率先垂範し、利用者の大きな安心感に繋げている。職員にもこの「おもてなしの心」がよく理解浸透されており、リビングで寛ぐ利用者の笑顔や話の遣り取りにその「心」を感じる事ができる。利用者アンケートには、職員は明るく気さくで家族が思っている以上に利用者の事を考えてくれていると、感謝の言葉が多く寄せられている。理念に対するこの真摯な取り組みを評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の業務会議時、全員で理念の唱和を行い、スタッフ全員が理念を理解、共有し日々の介護に実現すべく取り組んでいます。	おもてなしの心を持って、利用者や家族の安心安全を守るという方針を掲げ、理念の実践に努めている。職員が介護の心と技術の基本に、自主的に立ち返ることを常に促し、理念の共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の支援内容に、地域との交流を取り上げ日々の散歩、地域商店街への買い物の実践の中で地域との交流の拡大をはかっています。	散歩や買い物際には、利用者からの挨拶や声掛けを心掛け、近隣との交流が進むよう配慮している。ホームの活動内容を記した案内を地域にポスティングし、利用者やホームの理解を深める取り組みも行っている。	近隣との交流に前進が見られるが、町内会への働きかけなど、地域との交流を多角的に推進させることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームに付いての案内チラシを作成、地域へのポスティングによりホームでの生活を案内しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、主任介護支援専門員の参加をいただき地域との交流、ご家族のホーム運営への積極的参加をいただく為の意見をいただきホーム会議で取り上げ、サービスの向上をはかっています。	運営推進会議は年4回開催された。運営推進会議議事録には地域包括職員や家族代表が参加し、活動内容の報告や質疑応答等が記録されている。地域包括職員からは防災体制や行政の指針についての情報が提供され、運営に活かされる会議となっている。	町内会長や民生委員など地域の方々の参加を求め、運営の見守り役を担って頂ける会議となる様、取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉県グループホーム連絡会、千葉県集団指導に等に参加し市との交流をはかっています。	市高齢施設課や介護保険課とは、利用者や保険上の相談について連絡を密にしている。グループホーム連絡会に所属し、空き室情報の提供など行政との連絡役を務め協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県が行う「身体拘束廃止研修会」にスタッフを積極的に参加させる、またホーム会議に於いても議題に取り上げ「拘束をしない介護」の実践を行っています。	身体拘束の排除は法人の方針であり、ホーム全体会議でテーマとして取り上げ、実践面での排除に繋げている。着任一年目の職員には、ホーム長等が講師となり集合教育を実施し、拘束排除の徹底化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニテイ学館として「虐待は許さない」をスローガンに、ホームに於いては業務会議の研修議題として年間予定に組み込み全員で「虐待」の内容、実態を学び理解して日々の介護を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年4回行われる会社による研修会に職員を参加させ知識の徹底に努めています。来訪者からの相談があった時は制度の説明をする等お客様の権利擁護に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時ご契約者に必ず「重要事項」の説明を行い、内容の理解、納得をいただきご入居していただいています。内容改定時は「家族会」を開催し全員のご賛同をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に於いて必ず質疑応答の時間を設け、意見・ご要望をうかがいホーム運営に取り入れています。	家族の面会訪問時に、ホーム長が利用者の現実を可能な限り説明し、支援について家族とよく話し合って要望を運営に反映させている。家族会や運営推進会議で家族が発言しやすいよう配慮し、意見や提案を運営に反映させる事に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の業務会議、2回のユニットカンファを行い、職員の意見、要望を聞く機会を設け運営の改善に努めています。	日常、職員の意見や提案は介護支援専門員が中心となって聴き取りを図り、業務会議やユニットカンファレンスで検討され運営に活かしている。最近、理想とするグループホームとはというアンケートを職員に実施した。結果発表会で共通した課題点を見出し、改善に結びつけるという取り組みにも挑戦している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内に於いて、自給者は「キャリアアップ」制度による昇給、契約社員には正社員への登用制度が設けられています。労働組合「NCCU」へも加盟、就業待遇・労働環境の改善にも力を入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修・新入社員研修・フォローアップ研修(経験年数別研修)を行い職員の育成に努めています。業務会議に於いてスタッフに研究課題を与え発表させる等職員の質のレベルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会に参加し他施設の情報を得る努力をしています。情報をもとにホーム運営の改善に活かす努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「センター方式」に基づきアセスメントを行い、本人の不安等を受容しホームでの生活の安心を確保しています。入居前面談に於いても本人の不安の無い様傾聴しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「センター方式」に基づくアセスメントでご家族の要望・不安等を傾聴し、ホームでの本人・ご家族・スタッフの関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期アセスメント時、本人とご家族がまず何を必要としているのかを聞き取り、ホームで行えるサービス、連携の中で行えるサービスを案内をし、本人・家族の要望にそえるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や日常生活での暮らしの工夫を本人と相談し、本人が主体者であるべく共同生活を営む努力をしています。先人の知恵を参考にさせていただくことも多々あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援する為に、ご家族との絆を深める為に誕生会等の諸行事にご家族の参加をいただき、ホーム・ご家族で共に本人を支えていくよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご家族との外出、誕生会への友人の参加等をいただく機会を設けたり、友人のホーム訪問を奨励する等、関係継続の支援の努力をしています。	よく行くスーパーやコンビニの店員とは顔馴染みとなっており、外出を兼ねての利用で関係継続に努めている。近所の喫茶店も、お茶会を楽しめる馴染みの店となっている。家族や友人の訪問が多く、訪れやすい雰囲気作りを心掛けるなど、関係継続の支援に多くの配慮がみられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの利用者の座席の配置等、利用者間関係を把握し考慮した位置関係を保つことに努め、利用者同士の友好関係が築けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の有無・契約期間の内外を問わず本人・ご家族からの相談には随時対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でお客様の意向、希望を会話の中で聞き取る努力をし、お客様一人ひとりのご希望にそい職員が共同で支援に当たっています。ご希望の実現が困難な時でもご希望に近づけるよう協力・努力しています。	ユニットカンファレンスで個々の変化を検討し、意向の把握に努めている。いろいろな症状が重なり持続する場合は、センター方式で本人の状況を再確認し、職員間で話し合って思いの把握と反映に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「センター方式」の活用に力を注ぎ、全職員がお客様の生活歴を始め、全体像の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月各ユニットでケアカンファレンスを行い、お客様一人ひとりの現状や思いへの気づきを各スタッフが持ち寄り、内容の分析・把握に努め日々のケアに取り入れるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで全入居者の介護の結果・課題・問題点等の意見交換、提携医、訪問看護、ご家族等の意見をもとにモニタリングを行い介護計画に取り入れています。	24時間介護記録を基に毎月ケアカンファレンスで話し合い、介護計画に活用している。変化があれば家族の意向を確認し、提携医の指示や、訪問看護師、関係者で検討してより現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の全入居者の介護の記録を残し朝夕に申し送りを行い、職員間で情報の共有を行い介護の実践に活かし、介護計画の作成・見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じ随時サービス担当者会議を行い柔軟な姿勢で支援・サービスの提供に当たっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域商店街での買い物散歩を行い、地域の皆様とのなじみの関係づくりを大事に実践しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の提携医往診により入居者の健康の維持・管理に努めています。	かかりつけ医や物忘れ外来等の専門医の受診は可能な限り継続することを勧めている。提携医による往診が月2回あり、出来るだけ正確な情報のもとでの受診が得られるよう支援している。ホームでの利用者の健康状態は、家族に報告し安心に繋がるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結び週1回の訪問看護サービスを行っています。看護師のアドバイスを受け提携医へ連絡、医師の指示で入居者が適切な医療を受けられる体制を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が入居者の入院先病院を訪問、本人の情報提供・交換を行うことで入院期間の短縮、退院時のスムーズなホームへの受け入れ実現に努力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験有り。提携医・看護師・本人・ご家族・職員で話し合いを行い方針を決定、職員が方針を理解・共有し支援に取り組みます。	医療連携を充実させているので、家族が望めば終末期の対応は可としている。嚥下や水分摂取が困難となった時点で、家族と医師を交えて今後の方針を検討している。職員間で情報を共有し、訪問看護の利用や医療関係機関との連携を密にして、利用者や家族の希望に沿う支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に備え、会議等に於いて緊急時対応の勉強をし、また「救急救命講習」を職員全員が受けるよう奨励しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「消防計画書」に基づき年2回の火災避難訓練を行っています。訓練には夜間一人体制時を想定した避難訓練も行い、入居者の安全の確保に努めています。	今年度は2回、夜間想定火災避難訓練を行った。1回は消防署立ち会いで行い、通報の仕方や戸の開閉、入居者の移動等細かい指導を受けた。自主点検表で消火器具等を確認し、火を出さない心構えを日々新たに行っている。	訓練を通じて課題点が見い出されている。全職員が災害時の対処方法を習熟すると共に、近隣の協力を得られるよう、日頃の働きかけが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ホスピタリティー・おもてなし」の心を持ってお客様と接し「お客様第一主義」を基本に支援に当たっています。また、プライバシーの保護には最大の注意を払っています。	各種書類や個人情報に関するものは、鍵のある場所に保管している。プライバシーの尊重についてホーム長が会議で分かりやすく説明し、入所者はおお客様であり、おもてなしの心で接するよう接遇面での充実を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の思いや希望を引き出す声かけ、お客様の選択権を尊重する声かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様一人ひとりの生活ペースを大切にし、日々楽しく生活が出来るよう支援しています。業務よりお客様優先の基本姿勢で日々のケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣時から外出時の服装までお客様の希望に添い、季節に応じその人らしい身だしなみが出来るよう声かけ、見守りを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と職員との協働での食事作り、食事は職員も一緒に食べ、後片付けも協力して行っています。	利用者は職員と一緒に、野菜の下ごしらえや配膳・片付けを手伝っている。嚥下状態に合わせて、調理形態を整え提供している。毎食前には嚥下体操を行い、安全で楽しい食事になるよう見守りや介助に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様一人ひとりの状態に合わせた一日の水分量の設定、毎食の食事量のチェックを行い、支援計画に基づいてサービスを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お客様の口腔ケアを行っています。お客様の能力に応じ職員が見守り、声かけの支援を行い、お客様の口腔内の清潔が保たれるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要なお客様の排泄の落としこみをし、トイレでの排泄が出来るよう支援を行っています。オムツ・パッドに頼らない、排泄の自立を考えた支援を常に行っています。	個々の24時間介護記録表で、水分摂取量・排泄状況を把握している。これを基に排泄誘導を行い、リハビリパンツ使用からトイレで排泄できるよう自立を支援している。排泄支援が根気よく行われ、成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の知識を深める勉強会を開き、食事・水分・運動量などお客様の一人ひとりの状態に応じた便秘予防の支援を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前よりいつでも入浴が出来る体制を整え、お客様に入浴の楽しみを味わっていただけの支援を行っています。	午前午後に分けて毎日入浴できる準備をしている。入浴剤や柚子・菖蒲の香りを楽しみ、入浴の翌日はよく眠れて、利用者の状況が違ってくるということである。湯温は心臓や高血圧症に配慮し個別に調節され、週3回は入浴して清潔を保つように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人ひとりが落ち着いて過ごせる環境を作るよう努力、支援しています。足浴等の実施でお客様の安眠をはかる努力をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携の支援の中でお客様一人ひとりの薬の内容を把握し服薬の支援を行っています。お客様の健康状態を適宜提携医に報告、変化に応じ提携医の指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「センター方式」を活用し、お客様の生活歴を活かした書道・手芸等のレクリエーションを行っています。定位置での喫煙、飲酒も可としています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・体調の良い日の散歩、買い物を毎日の支援計画に取り入れ実行しています。ご家族やお友達と外食に行かれるお客様もいらっしゃいます。年2回のバス旅行、お花見外出等も行っていきます。	スーパー等へ買い物と運動を兼ねて出かけている。下肢筋力が低下傾向にある利用者には、職員が空の車椅子を押して行き、途中で乗れるよう配慮している。バスで花見やポートタワー、青葉の森公園に出かけ、外気浴を兼ねて気分転換を図り、閉鎖的な生活環境にならないよう多彩な支援が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様個人の買い物時、お客様自身が支払いからお釣りの受け取りまで出来るよう、声かけ、見守りの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様本人がご家族や友人への手紙や年賀状を書いたり、ご希望時ご家族へ電話を掛けられるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に季節感を取り入れる工夫を常に行っています。共用の場であるリビングには月毎に季節感をあしらった装飾をし、居心地のよいように工夫をした支援を行っています。	毎月、ユニットのリーダーが主導となって、季節感を感じるテーマで、折り紙絵や貼り絵を創作し壁に飾っている。紙の大きさや糊つけを加減し、利用者に語りかけながら制作を支援して、達成感に繋がるよう力を入れている。梅の花やうぐいすの絵とともに、皆で撮った写真が飾られ居心地のいい空間となるよう工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場であるリビングにおいては、気のあったお客様同士が隣り合った席でくつろいでいただけるよう、一人ひとりの居場所作りを考えて支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの装飾品・家具等を持ってきていただきお客様が居心地良く過ごしていただける空間作りに努めています。	気に入りの趣味の作品、掛け軸、家族の写真や使い慣れたテレビを持ち込んで、これまでの生活感覚を継続できるような工夫がみられる。また、落ち着いて過ごせるように時々携帯電話で話せるよう支援し、家族の温かい思いやりが伝わるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレ・浴室・洗面所等の場所がわかり易い工夫をしています。お客様一人ひとりの安全・身体状況を考え、使用するトイレ・洗面所の工夫もしています。		